

特29
179



鐵樵童子兼子道仙著作

真理之裁判



兵庫 慈無量社出版

真理之裁判

著者 藤田鳴鶴

東京 明治三十四年三月

眞理之裁判自序

客あり來りて。童子に勸むるに。天理教會駁撃の書と。著さんことと以てす。童子は多事繁忙。静かに考慮して筆と執るの暇と得む。由て辞す。客聽かむして曰く。之れ社會公衆の爲なり。何んぞ辞すべけんや。亦曰く子は曩きに。眞之光てふ雜誌と發行し。その號外として。眞理之裁判と名けし。一小冊子と出版せしに非むや。當時該冊子と閱讀せしに。その論稍々偏頗の説なきにあらむ。希くは公平にして私しなく。單に彼等の短所と列擧するに止まらむ。一

層濶大なる見解を以て、彼が堅城鐵壁とする所の議論を容れ、正々堂々、天に恐れを、地に耻ぢを、戦一戦して、彼れに抗敵するの、著書あらんことと望むと云へり。童子元とより不學無識にして、客の需めに應むること能はむと雖ども、眞理と愛するの熱心は、腸と焦せり。於是乎、世の辯難攻撃を避けむ。嚮きに友人無我居士が寄稿せし、眞理之裁判を参考として、更に復區々たる意見を加へ、之を世に公にし。以て同胞に訴ふるなりと。爾か云ふ

紀元二千五百五十三年五月念六日

鐵槌童子謹言

凡例

- 一此書ハ。近來吾ガ。日本帝國ニ跋扈スル。天理教會ノ内幕ヲ穿テテ。著作シタル者ナレバ。現今該教會ノ組織。及ビ布教ノ模様。信者ノ情況等ヲ。知ルニ足ルベキモノナリ。
- 一此書ハ。民事訴訟法ノ。手續ニ倣フテ。著述シタルハ。讀者ハ。倦怠ナカクシメン爲メナリ。諸君ソノ之ヲ諒セ。
- 一此書ハ。讀ミ易ク。且ツ解シ易キヲ主トシ。俗字俗語ヲ用ヒタルハ。拙劣野卑ヲ以テ。深ク咎ムルコト勿レ。
- 一此書ハ。世ニ類書少ナキヲ以テ。早尙ノ間ニ編纂シ。疾ク妖教ヲ撲滅セント欲シタル者ナレバ。字句ノ修正等ヲ爲スノ暇ヲ得ズ。由テ文章流暢婉曲ナク。稍蕪陋ヲ免レズ。看客諸君幸ニ。童子ガ精神ヲ推知シ玉ヘ。

一此書ハ標目ヲ分テ六項トス

曰訴狀ナリ「天理教會ニ攻撃スル。本書ノ緒論」

曰答辯書ナリ「天理教會ガ防禦スル。堅城鐵壁ノ論鋒」

曰公判ナリ「原告被告ノ論陣」

曰証人訊問調書ナリ「神儒佛三道ノ大意ヲ以テ立証」

曰口頭辯論ナリ「原告被告ノ激戰ニシテ。本書ノ主眼」

曰判決ナリ「真理之裁判判決ニシテ。本書ノ結論」

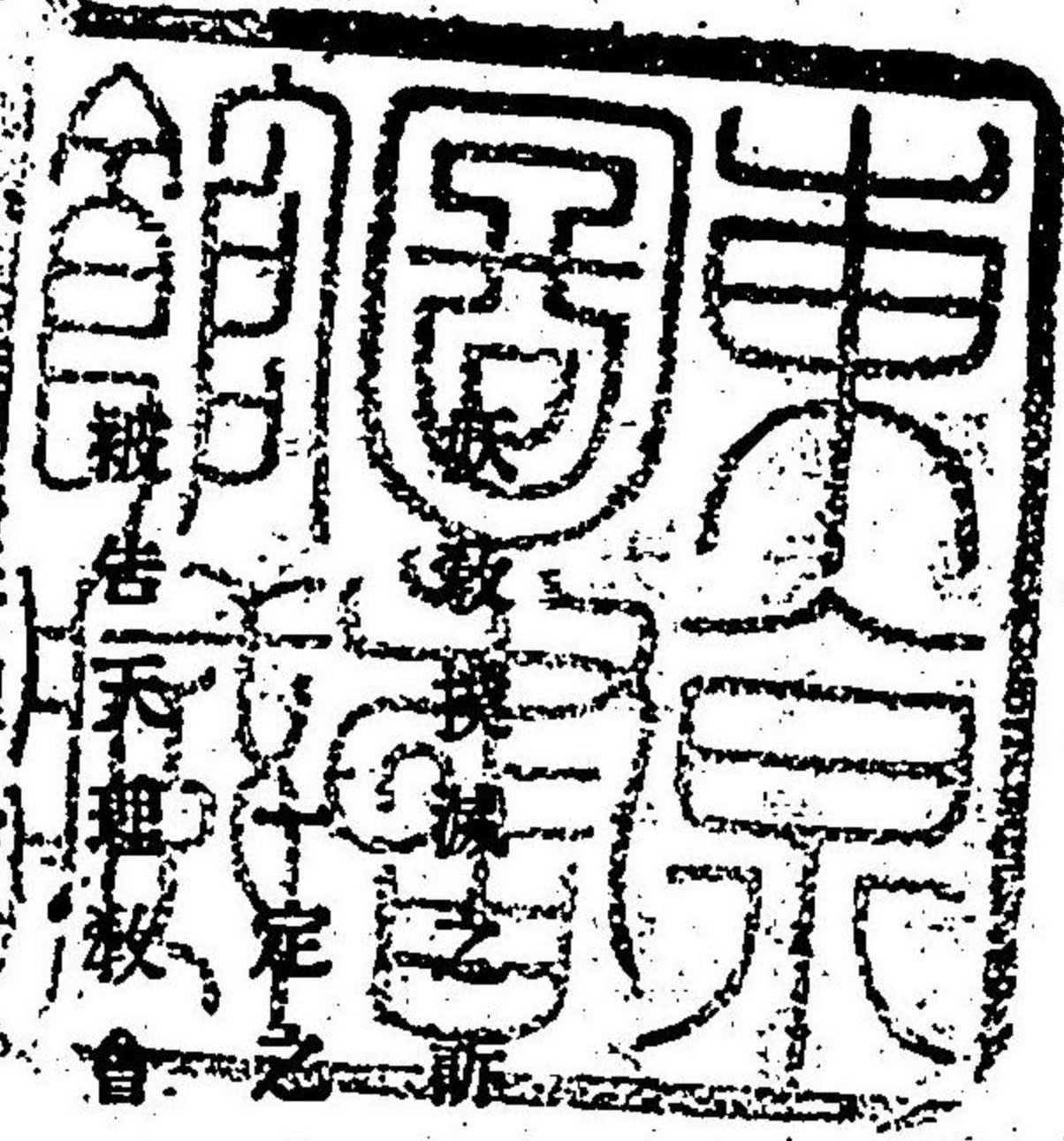
「此書發刊以後、天理教會ニ於テ。非常ノ刺激ヲ感テ。該組織及ヒ布教ノ方法等ヲ。變更スルハ必定ナリト信ズルヲ以テ。將來該教會ノ組織及ヒ布教ノ方法ト。本書ノ記事ト符合セザル所アルモ。敢テ怪ム勿シ」

編者識

真理之裁判

訴狀

原告 大日本國
 社會公平
 被告 大日本國
 天理教會



被告天理教會ハ、妄言ヲ吐キ、人心ヲ惑亂シ、社會ノ秩序ヲ紊
 人類社會ニ其根據ヲ絶ツヘキ旨、及ヒ天理教、教祖みき女ガ、
 妄談妖怪ノ譚語ヲ吐キ始メシ、天保九年ヨリ今日ニ至ル迄、

數十万ノ良民ヲ盛惑シ、其結果日本臣民ノ名譽ヲ傷ケ、我が
 社會ニ與ヘタル損害賠償ノ爲メ、亞細亞、歐羅巴、亞米利加、亞
 非利加、澳西太利、等五大洲ノ首府、及ビ都會ノ地ニ、被告自カ
 ラ派出シ、公衆ニ對シテ、被告ノ行爲ハ、日本帝國臣民ノ、本心
 ニ出デタルコトアラズ、被告等一時ノ妄想心ヨリ、誤テ社會ノ
 愚民ヲ瞞着セシ、不都合ノ段ハ、單ニ被告教導職、及ビ講元等
 ノ大罪ニテアリシコトヲ、謝罪演説ヲ爲シ、將來再ビ右妖教ノ
 發生セザル様ニ誓ヒ、若シ被告ガ之ヲ履行セザル時ハ、
 原告ニ於テ、本案訴狀ヨリ、判決ニ至ルマデ、其顛末ヲ著作シ
 テ、之ヲ世ニ公コスベキ旨、御裁判奉願候

事實及理由

原告社會公平ハ、曾テ大日本帝國ノ臣民タルノ義務ヲ盡ク

サント欲シテ、口ニ正理ヲ説キ、身ニ公道ヲ踐ミ、苟モ社會ノ
 有害物ト認ムルモノアラバ、之ヲ道理ニ問ヒ、眞理ニ訴ヘ、
 而シテ國家ノ安寧ヲ祈リ、八州生民ノ幸福ヲ増進スルノ目
 的ヲ以テ、各地ニ流布スル、教會講社等ヲ探檢スルニ、爰ニ天
 理教會ナルモノアリ、根元ハ大和國ニシテ、其流布ノ地ハ、山
 城、河内、紀伊、攝津、播磨、備前、備中、備后、美作、丹波、丹后、若狹、越前、
 近江、美濃、伊勢、伊賀、尾張、三河、駿遠、地方ニ蔓延シ、今尙チ勢ヒ
 益々盛ナルガ如シ、而シテ該教會ハ天理王之命ヲ信仰シテ、
 御利益ヲ戴キ、病者ハ醫藥ヲ用ヒズ、該信者等時々相ヒ集マ
 リテ、御手振歌ト稱シテ、野鼻拙劣ノ俗歌ヲ唄ヒ、老若男女入
 リ亂レテ、舞ヒ踊ル有様ハ、狐狸ニ魅マサレタルモノ、如ク、
 又神經病者ノ狂フガ如ク、實ニ吾が大日本帝國ノ、風俗ヲ害

スルコト^{スナ}勘カラス、該教會ノ教師或ハ先生ト稱スル者ハ、無資格不明者多ク、其信徒等ハ無學文盲ニシテ、^{ワラニシキヤ}蕪人形ノ如ク、何ゾレモ皆ナ天理王命ノ利益ヲ戴キ、病氣平癒シタリト、妄信スルガ如キ愚迷者ナリ、試ミニ該教會信者等ノ、情況ヲ尋ルニ、其家ハ破レ、其産ハ失ヒ、其身ハ顔色憔悴シ、形容枯槁シタル病夫ガ、然ラズンハ眼病者、若クハ腰間海老ノ如キ、白髮ノ老婆ニ多ク、天理王命ノ利益ヲ喋々シテ、^{ヨク}涎ヲ流シ居ルナリ、然リ而シテ斯ノ如キノ愚民、動モスレバ地方ノ教育ヲ妨グ、無用ニ巨金ヲ抛棄シテ會堂ヲ建築シ、自己ノ財産ヲ破リ陽ニハ、日ク三條ノ教憲ヲ宣布スルナリ、日ク神道直轄ナリ、日ク管長稻葉正邦教正ノ許可アリ、日ク信教自由ナリト、種々ニ潤色シ、陰ニハ佛敎ニ非ラズ、儒敎ニ非ラズ、又神道ノ真面目ニ非ラザル、奇怪ノ妄説、野蠻ノ^カ囁語ヲ以テ、愚民ヲ迷ハシ、恐レ多クモ、吾ガ日本帝國ノ祖宗タル、國常立命ヲ始メ、十柱ノ神ヲ、十把一束ニシテ、私ニ天理王命ノ名稱ヲ附シ、古代神事祭典ノ實ヲ失ヒ、新發明野蠻ノ手踊ヲナシテ神樂ト云ヒ、其他牽強附會ノ説ヲ以テ、真理ノ正路ヲ踏ミ違ヘ、邪敎ノ横路^{クイキヨク}荆棘ニ入り、剩サヘ吾ガ日本帝國臣民ノ、名譽ヲ害スルモノナリ

立証

甲第一號ヨリ、第八號ヲ以テ、証明ス

甲第一號証
明治七年六月七日、教部省、乙第三十三號達
禁厭祈禱等ノ儀、神道諸宗共、人民ノ請求ニ應ジ、從來ノ

傳法執行候ハ、元ヨリ不苦筋ニ候處、間ニハ之レカ爲メ、醫藥ヲ妨グ、湯藥ヲ止メ、候向モ有之哉ニ相聞ヘ、以テ外ノ事ニ候、抑モ教導職タルモノ、右等貴重ノ人命ニ關シ衆庶ノ方向ヲ誤ラセ候様ノ、所業有之候テハ、朝旨ニ乖戾シ、政治ノ障礙ト相成、甚以不都合ノ次第ニ候條、向後心得違ノ者、無之様、屹度取締可致、此旨相違候事

甲第三號証

明治十五年七月十日、内務省戊第三號達
禁厭祈禱ノ儀ニ付、七年六月敎部省乙第三十三號達ノ趣モ有之候處、病者治療ノ際、之カ爲メ投藥ノ時機ヲ誤ル儀モ有之哉ニ相聞、不都合候條、今后信者ヨリ請求候節ハ先服藥ノ有無ヲ証明セシメ、果シテ醫師診斷治療中ノ者ニ

限リ、其望ニ應ジ、不苦候條、其旨屹度、可相心得此段相違候事

甲第三號証

刑法第四百二十七條第十一項
流言浮説ヲ爲シテ、人心ヲ誑惑シタルモノ
全第十二項
妄リニ吉凶禍福ヲ説キ、又ハ祈禱符呪等ヲナシ、人ヲ惑ハシテ、利ヲ圖ルモノ

甲第四號証

明治十四年十月三日、内務省戊第三號達
敎院敎會所説敎所等ニ於テ、葬祭ヲ執行シ、或ハ平素衆庶ニ參拜セシムル等、神社寺院ノ所爲ニ做ラモ、有之候テ

不都合候條心得違無之様、可爲致、此旨相違候事

甲第五號証

眞之光雜誌

讀者諸君注意セラレ、近來ハ似セ神道ガ漸々ニ流行シ
テ、盲ヤ、癡ノ様ナル不具者ガ、大講義トカ中講義トカ稱シ
テ、愚民ヲ迷ハシ、病者アリテモ醫師モ頼マズ、藥モ與ヘズ、
ヤレ祈禱、ソレ神様ノ御水トテ、腐リ水ヲ吞マシメ、或ハ躍
ルベシ、或ハ舞フベシトテ、病者ハ反テ重クナラシメ、愚民
ハ益々愚ナラシメ、警察ノ咎ヲ受レバ、吾々ハ教導職ナリ、
何々講義ナリ、何々教正ナリ、或ハ信教自由ノ勅令アリ、抔
トテ、其罪ヲノガレ、勢ヒ益々盛ンナルガ如シ、讀者諸君、
神道ハ我ガ國體ヲ維持スルニ、必用ナル道ナレドモ、是等

人似セ神道、所謂國害教ニ、迷ハザラシトナシ……

甲第六號証

神道管長稻葉子爵ニ質ス……君ハ神道管長ト聞ク、亦神
道教導職ノ任免ヲ監督ナスモノナリト、君ノ任ヤ重シ、君
ノ心ニ曲リ、ソレハ、神道教導職全体ニ關ス、然ルニ近來神
道直轄天理教會ト稱シ、愚民ヲ迷ハス、教導職アルハ、如何
ナル理由ヲヤ、文字モ讀メズ、昨日マデハ、桶ノ輪替屋、下駄
ノ齒入屋等ノ、人間ニ、大講義トガ、中講義トカノ、教職ヲ與
ヘ、自分ノ責任ヲ盡シタリト思ハル、カ、イヤ、此レハ
君ノ御存シナキ様子ナリ、皆中途ノ、拵ヲヘ事ト考ヘラル
、ナレド、今后ハ、急度、注意アラシトナシ……

甲第七號証

日本魂新聞

(天憲拔萃)

抑モ天理教ナルモノ、性質ハ、佛敎ノ外道ニシテ、所謂人倫ノ大道ヲ、轉倒スル惡魔ナリ、故ニ名ヲテ、轉倫誑ト云フ、彼ノ狡猾ニモ、其分疏ニ、恐レ多クモ、我が天照皇大神ヲ崇メ奉リ、無禮ニモ其御前ニ於テ、舞蹈跳踊セシメ、且ツ醜狀ヲ極メ、且ツ醫藥ハ用ユルニ足ラズトテ、汚レ腐リタル水ヲ吞マシメ、甚シキハ寒夜川ノ中へ裸体ニテ踊リ込ミ、大御神ノ子孫タル自己ノ命ヲ縮メ、頻リニ難有ガルハ、此レ〇〇ノ行爲ナリト雖モ、斯ル宗旨ヲ擴ムル狡猾兒アルガ故ナレバ、記者ハ一日モ早ク、斯ル狡猾兒ヲ撲滅セラレシコトヲ望ムナリ、若シ等閑ニ附シ去レバ、彼レ益々增長シテ、單ニ佛道神道ノ面目ヲ汚スノミナラズ、我が國体ヲモ汚辱スルニ至ル、故ニ記者ハ天理王放逐案ヲシテ、江湖ノ僧侶諸師及神官諸氏ノ議決ヲ待ツ云云

甲第八號証

密嚴敎報

(天憲拔萃)

天理敎放逐案ニ就テ……京洛東百六老人稿……老人ガ現ニ、天理王放逐事件ニ付テ、實地經驗ノ三五事實ヲ舉ゲテ、爰ニ該敎信者及關係人ノ參考ニ供シ、特ニ關西地方ノ、神官僧侶ニ問ヒ、少シク望ム處アラント欲スル所以ノモノハ、去ル四月一日以來、山城、河内、及ヒ近江、伊賀等各地方、有志者ノ請ニ應シ、各地ニ臨シテ、親シク彼等ノ所爲ヲ、見聞スルニ實ニ聞テ怪シヨリ、見テ嘆驚ノ甚シキ、所謂鼻下の、建立主義、擴張ノ爲メ、無賴漢相結ンテ巧ニ

各地ニ連脈ヲ通シ、一種奇怪ナル手段ヲ施シ、蠢々タル無
 知ノ小民ハ、之レガ爲メニ誑惑セラレ、可愛想ニモ、或ハ小
 兒ヲ失ヒ、又ハ家屋ヲ傾ケタルモノ、續々トシテ擲カラザ
 ルニモ拘ハラズ、迷夢未ダ覺メヤラズ、狂舞ノ中ニ、倫理ヲ
 紊亂スルモ亦、勢カラズ、神道管長ノ所可アルヲ奇貨ト
 シテ、彼等無賴漢狡猾兒ハ、愈々其志ヲ得テ、益々良民ヲ惑
 シシトスルヲ勢ヒアリ(中略)今日ニシテ、尙ホ斯ル破廉耻
 的野蠻行爲輩ノ大多數ヨリ組織セラレタル日本帝國ナ
 リト評下シ去ラル、ニ至ラバ、管ニ神佛兩道ノ面目ヲ汚
 辱スルノミニ止マラズ、老人ガ一日千秋ノ思ヒヲ懷キツ
 ヲアリシ條約改正談判ノ前途ヲ妨害シ、亦望ムベカラザ
 ルニ至ラシムルヤモ知ル可カラズ、如何トナレハ、彼ノ外

人ノ我レニ對スル口實ハ、果シテ……如何ソヤ……日本
 未開……日本野蠻……あなたいけませぬ……ノ一点張
 ナルコトヲ知ラザルカ。嗚呼我神佛兩道ノ諸君子、諸
 君ハ實ニ誠ニ正道ノ運動ヲ社會ニ試ミノトスルカ、恰モ
 今日ハ、金魚ノ如ク、日夜口ヲ揃テ、耶蘇教ハ國害ナリ、野蠻
 的宗教ナリト、啼々、嘖々、進一進シテ、彼レガ短處ヲ取テ、無
 責任ノ長談議論ニ擔キ出シ、放論スルノ餘暇アル、御方ナ
 ラズヤ、然ルニ何故ニ、天理教ノ如キ、衛生ヲ害シ、倫理ヲ紊
 シ、尙增長シテ將サニ國辱ヲモ招カントスルガ如キ、最モ
 淺間敷、奴原ノ積惡ヲハ、掃蕩セザルヤ、何故アツテ、彼ノ國
 害ト認ムル、耶蘇教ト共ニ併セテ之レヲ撲滅セザルヤ、蓋
 シ諸君ハ、斯ル野蠻的、狡猾輩ノ如キハ、元ヨリ半風子ノ罪

玉^{タマ}ヨリモ、小ナルモノナルガ故^ニ、大人ノ舌頭^ニ掛テ、論ズル^ニ足ラザルモノナリト、傍觀セラルコトハ、百モ承知ニ百モ合点スルトコロナレドモ、コレガ爲メニ盡感セラルル其民チ如何センヤ、若シ彼等今日ノ勢チシテ、オツ放シテ其往クトコロマデ到ラシメナハ、果シテ如何ナル結果チ見シ、嗚呼諸君ヨ、外教ノ國害タルチ惡マハ、夫レト同時ニ、斯ル内徒ノ弊害チモ、併セテコレチ撲滅セラレシコトチ、是レ老人ガ至願^ニ堪ヘザル所ナリトス、因テ御參考マデニ、三五ノ事實チ左ニ列擧ス

第一 天理王命ト眞正ナル神道トハ、毫モ關係ナキヲ、右ニ付テ、先ツ天理王ト云フ、名目チ變更セシ、所以チ知ラザル可ラズ、最初大和國山邊郡、針ヶ別處、出生ノ中村みさナ

ルモノ、全國高市郡シハ村、字庄屋敷、中村善平ナルモノニ嫁シ、其后未亡人トナリテ、鼻下の建立ノ爲メ、或ル修驗者ト謀リ、彼ノ世人モ熟知セル、佛教小説ノ部類ナル、三世草ト云フ書ニ起因シ、始メテ之チ唱ヘ出セリ(以上現今彼ノ老人ハ之チ知レリ)故ニ最初ハ、轉輪王ト稱セリ、是レ彼ハ三世草中、四轉輪王ノ名稱チ、取り來レルモノナリト知ルヘシ、其后又無賴漢アリテ、轉^テ天^ニ替變シ、遂ニ天輪王ト稱ス、而シテ今ヤ頗ル進歩發明ノ功チ積ミテ、ツイニ天理教ト稱シ、全ク神習教ノ一部分タル、姿チナスニ至レリ

第二 天理教ハ、衛生倫理チ害スルコト……凡ソ人ノ死ハ、少年老年チ合シテ、壯年ノ死數ト、相半スルモノ、如シ然ルニ天理教流行ノ地ニ於テハ、十歳未滿ノ小兒ノ死ガ、

老壯二者ノ死ヨリモ、超過セル所、往々之アルヲ見タリ、
 第三 彼等信徒ノ者ヲ除クノ外、他見テ斷サザルモノ十
 七ヶ條アリ、及教導職トカ、講元トカ稱スル者ハ、良民ヲ愚
 ニ導ク媒介人、タルニ過ギズ
 右ハ其人ニ付テ、實地探究セシ、人ノ皆知ルトコトナリ、其
 他祇禱ニ、三種ノ別アルコト、又布教手段等、枚擧ニ過アラ
 ス依テ下略ス
 伏テ乞フ、神佛兩道ノ諸君子ヨ、天理教ノ害タルヲ知ラハ
 速カニ之ヲ撲滅シテ、吾同胞兄弟姉妹ヲ、救済シ、且ツ野蠻
 ノ笑ヲ、受ケザランコトヲ、至禱々々
 因ニ云フ田舎ノ或ル僧侶ハ、天理教ト、論談シ、彼ノ三條教
 憲ノ爲メニ、打倒サレタルモノアルヤニ聞キタルガ、元來

三條ノ教憲タルヤ、佛教ト耶蘇教トニ拘ハラズ、苟モ日本
 臣民タル已上ハ、必ズ之ヲ奉戴スベキ筈ニテ、獨リ神道家
 ノ專有物ニ非ラズ、況ヤ天理教オヤ、僧侶諸君ヨ、以后ハ必
 ス此ノ一本鎗ノ爲メニ、シテヤサル、勿レ
 右之通ニ付、御審判ヲ、仰キ候也

右

社 會 公 平

眞理裁判長破邪顯正殿

管長稻葉正邦教正ヨリ公然認可ヲ得テ、神道直轄天理教會ト稱シ、世ニ公ニシタル者ニシテ、他ヨリ彼レ是レト、喙ヲ容ル、ヘキモノニアラズ、抑モ此ノ天理教會ハ、大和國、山邊郡、三嶋村、五番地、平民、中村新次郎方チ本部トシ、各府縣ノ勝地ニハ悉ク、支部ヲ設ケテ教務ヲ取扱ヒ、例月廿六日ヲ祭日トシテ、各府縣信者ハ、各府縣支部會堂ヘ參拜シ、毎年十月廿六日大和國本部ニ於テ、大祭典ヲ執行シ、各府縣信者ハ、隨意參拜ス、而シテ年々歳々、信徒ノ増加スルニト數十万余下ラザルナリ、是レ偏ニ天理教會其目的ノ宜シキト、信教自由ノ御聖旨ニ由ルナリ、然ルニ世間ノ腐リ神主、生臭坊主、寢ボケ儒者等ガ、妄リニ我が天理教會ヲ誹謗シテ、之ヲ筆ニシ、之レヲ口ニスルモ、却テ己レノ刀ヲ以テ、己レノ首ヲ切ルガ如ク、亦

風ニ向テ唾スルガ如ク、又己ノ面ニ被ルナリ、云何トナレハ、腐リ神主等ガ吾ガ天理教會ヲ罵詈スルモ、己ニ其ノ管長稻葉子爵ノ認可ヲ得タルヲ云何セシ、又生臭坊主等ガ、吾ガ天理教會ヲ妨害セントスルモ、己ニ信教自由ノ勅令アルヲ奈何セシ、次ニ寢ボケ儒者ガ吾ガ天理教會ヲ誹謗スルモ、此ノ教會ハ天命ニ適フガ故ニ、日一日ヨリ盛大ナルヲ如何モシ、是ニ由テ之レヲ觀レバ、原告ハ不當ノ訴訟ヲ提起シタルモノナリトス

立証

乙第一號ヨリ第三號ヲ以テ証明ス

乙第二號証

壬申四月教部省達

第一條 敬神愛國ノ旨ヲ體スベキコト

第二條 天理人道ヲ明ニスベキコト

第三條 皇上ヲ奉戴シ朝旨ヲ遵守スベキコト

右ノ三條兼テ之ヲ奉戴シ、說教等ノ節ハ、尙能ク注意致シ、御趣意ニ不悖様厚可相心得事

乙第二號証

癸酉二月教部省布達

教法ノ要ハ、三條ノ御趣意民心ニ貫徹シ、各其職ヲ盡サシメ、罪惡ヲ未萌ニ防グニアリ然ルニ昏愚無教ノ民ハ、公私善惡ヲ知ラズシテ、刑ニ就ク者往々有之、是レ教化ノ未ダ民心ニ浹洽セザルニ依ル所ナレバ、自今教導職ハ、司法所施行ノ律書ヲ熟覽致、云云スレバ、云云ノ罪ニ當タル所以

ナ惡諭シ、教法實際被相行候様、可心掛旨、教導職一同ハ、無遺漏、可相達事

乙第三號証

明治廿二年二月十二日御發布大日本帝國憲法

第十八條 日本臣民ハ、安寧秩序ヲ妨グズ、及ビ臣民タルノ義務ニ背カザル限リニ於テ、信教ノ自由ヲ有ス。右之通り本書ニ依テ謄寫候也

右

天理教會

真理裁判長破邪顯正殿

妄談妖怪ノ説ヲ吐キ始メシ、天保九年ヨリ、今日ニ至ル迄、數十万ノ良民ヲ盡感シ、日本臣民ノ名譽ヲ傷ケ、我が社會ニ與ヘタル、損害賠償ノ爲メ、亞細亞、歐羅巴、亞米利加、亞非利加、澳西太利、等五大洲ノ首府、及び都會ノ地へ、被告自カラ派出シ、公衆ニ對シテ、被告ガ從來妖怪奇異、非説虚言ノ妄談ヲ擴張セシハ、元ヨリ日本帝國臣民ノ、本心ニ出デタルニアラズ、被告等一時ノ妄想心ヨリ、誤テ社會ノ愚民ヲ瞞着シタル、不都合ノ段ハ、單ニ被告教導職、及び講元等ノ大罪ニテアリシヲ、謝罪ノ演説ヲ爲シ、將來再ビ右妖教ノ發生セザル様フニ誓ヒ若シ被告ニ於テ、其手續ヲ履行セザルトキハ、原告ハ本案頗

未チ世ニ公ニスベキ旨、御裁判ヲ乞フ

判事曰

原告訴訟ノ事實、及び理由ヲ陳述セヨ

原告曰

原告ハ嘗テ、被告天理教會ノ情況ヲ探檢スルニ、被告ハ本件訴訟狀、及理由(訴狀參照)ニ列記シタル行爲アルニ付、今日ニシテ、其ノ傳染ヲ防ガズンバ、將來社會ニ茶毒ヲ流スコト大ナシ、是レ原告社會公平ガ默セント欲シテ默スルヲ能ハザル所ナレバ、飽迄破妄顯信、正々ノ議堂々ノ論、以テ眞理ノ裁判ニ訴フル所以ナリ

判事曰

被告天理教會ノ、一定ヲ申立テ、陳テベシ

被告曰

被告ガ一定ノ申立ハ、原告社會公平ガ、妖教撲滅ノ訴訟ハ、不當ニ付キ、其請求相立ザル旨ノ、御裁判ヲ

乞フ

判事曰 被告 答辯ノ事實、及理由ヲ陳述セヨ

被告曰 被告ガ今日マデノ行爲ハ、答辯書事實及理由(答辯

書參照)ニ列記ノ如ク、被告ハ只管三條ノ教憲ヲ奉戴シ、天皇陛下ノ勅令ヲ遵守シ奉リ、剩サヘ神道、管長、子爵稻葉正邦、教正ノ許可ヲ得テ、世ニ公ニ流布シタルモノナリ、故ニ妄リニ撲滅セラルベキモノニアラズ、實ニ原告ハ不當ノ請求ヲ、ナスモノナリ

判事曰 原告證據書類ヲ、出スベシ

此ノ時原告ハ前記(訴狀)列記ノ證據書類甲第一號ヨリ全第八號証ヲ提起シテ
判事ニ示ス

判事曰 被告證據書類ヲ出スベシ

此ノ時被告ハ前記(答辯書)列記ノ證據書類乙第一號ヨリ全第三號証ヲ提起シテ判事ニ示ス

判事曰 被告ハ、原告ノ提起シタル、證據書類ヲ、認ムル哉

被告曰 原告ノ證據物、甲第一號ヨリ、全第五號迄認ム

判事曰 其ノ餘ハ如何

被告曰 其ノ餘ハ認ムルヲ能ハス

判事曰 原告ハ、被告ノ證據物ヲ、認ムルヤ

原告曰 被告ノ提起シタル證據物、乙第一號ヨリ、全第三號迄、悉皆認メヨリ

判事曰 原告證據書類ノ説明スベシ

原告曰 原告ガ提起シタル證據書類

原告曰 原告ガ提起シタル證據書類

甲第一號証ハ、明治七年六月七日、元教部省ノ御達
 ニシテ、即チ本文ニ禁厭祈禱等ノ儀ハ、神道諸宗共
 人民ノ請求ニ應シ、從來ノ通り、傳法執行候ヘ、元
 不苦筋ニ候處、間ニ之レガ爲メ、醫藥ヲ妨テ候
 向モ有之哉ニ相聞、以テ外ノ事ニ候、云云トアリ、然
 ルニ被告天理教會ガ、今日世間ニ流布シ、盛大ニ趣
 ヲ原因タルヤ、病人アルモ、藥ヲ用ユルニ及ハズ、天
 理王命ヲ信スベシ、必ス全快スルナリ、醫師ヲ招ク
 ニ及ハズ、天理教會ノ教導職ガ、祈禱スレバ全治ス
 ルナリ、産婦ハ産婆ヲ頼ムニ及ハズ、天理王命ヲ信
 スレバ、必ス安ク分娩スベシ、農家ハ耕セズトモ、天
 理王命ヲ信スレバ、他ヨリモ勝レテ實ルナリ、云云

前解レ込ニ、前陳ノ如ニテ、病者ハ診察料藥禮ハ不
 必用ナリト云フ、怪説ヲ聞テ、天理教會ヘ加入スル
 モノ、十ニ八九ナリ、故ニ病者ハ投藥ノ時機ヲ誤リ、
 貴重ノ身命ヲ捨テ、モ又、多ク世人ノ知ル所ニシテ、即チ本號證ノ御達ノ
 出ヅル原因ナリ、是レニ由テ天理教會ハ、神道諸宗
 ノ信用ヲ害シタルコトヲ知ルニ足ル、甲第二號証
 ハ、明治十五年七月十日、内務省之御達ニシテ、前號
 同様ナレバ、説明ヲ要セス
 甲第三號証ハ、刑法第四百廿七條、第十一項、及ビ第
 十二項ニシテ、即チ本條ニ左ノ諸件ヲ犯シタルモ
 ノハ、一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ、又ハ廿錢以

上壹圓二十五錢以下ノ料料ニ處ストアリ、然ルニ
 被告天理教會ハ、本條第十一項ノ如ク、流言浮説ヲ
 爲シテ、人ヲ誑惑シ、又本條第十二項ノ如ク、疾
 吉凶禍福ヲ説キ、又祈禱符呪等ヲナシ、人ヲ惑ハ
 シテ、利ヲ圖ルヲ屢カアリ、又之レガ爲メニ警察署
 へ拘引セラレシコモアリ、本號ノ刑法ハ、之レ天理
 教會アルガ爲メニ出來タルナリ、實ニ斯ノ如キモ
 ノアル故ニ、官ノ手數ヲ煩ハスコト大ナリ、官ノ手數
 ヲ煩ハスコト多ケレバ、順々我々人民ノ困難ヲ
 生スルコト、勘カラズ、故ニ一日モ早ク、被告天理教
 會ヲ撲滅シ本條本項ノ法律ヲ無用ニシテ、官ノ手
 數ヲ省キ、人民ヲシテ安樂ニ致シタキモノナリ

甲第四號証ハ、明治十四年十月三日、内務省ノ御達
 ニシテ、本文ハ、教院教會所説教所等ニ於テ、葬祭ヲ
 執行シ、或ハ平素衆庶ニ參拜セシムル等、神社寺院
 ノ所爲ニ倣フモノ有之候ヲ、不都合ニ候條云云
 トアリ、然ルニ被告等ハ、教會所本部、又ハ支部ニ於
 テ、種々ノ名目ヲ附シテ、祭典ニ類シタルコトヲ執
 行シ、又ハ教會堂ノ正面ニ天理王命ノ拜殿ヲ置キ
 平素衆庶ヲシテ參拜セシメ、神社寺院ノ所爲ニ倣
 フモノ、往々有之、然リ而シテ、又狡猾ニモ、本條ノ法
 律ヲ免レント欲シ、教會堂へ參拜スルモノハ、皆ナ
 會員ナレバ、敢テ差支ヘナシ云云ト、世間ノ法律ヲ
 欺クモ、眞理ノ裁判ハ、争カデカ、斯ノ如キ、狡猾奴輩

應漢ノ所業ヲ默々ニ附スベキヤ
 甲第五號証ハ、神戸市慈無量社、發行、真之光、第一號
 ノ拔萃ナリ、抑モ新聞雜誌ハ、社會ノ耳目タルベキ
 モソナルヲ以テ、充分信ズベキモノナリ、果シテ此
 ノ真之光ノ記事ヲ信ズベキモノナリトセバ、被告
 天理教會ハ、實ニ怪ムベキ妖教ナリ
 甲第六號証ハ、大坂三寶社ヨリ、發行シタル、三寶
 稱スル、雜誌第一號ノ拔萃ナリ、
 甲第七號証ハ、神戸市元明道館、發行、日本魂ト稱ス
 ル、新聞ノ拔萃ナリ
 甲第八號証ハ、東京振教會發行、密嚴教報ト稱スル
 雜誌ノ拔萃ニシテ、以上ノ証據ハ、被告ノ所爲ハ、實

判事日
 被告日

神國家ニ害アルヲ知ルニ足ル
 右之外証據澤山アレントモ、最早キ充分ナリト、認
 ルガ故ニ、餘ハ略ス
 被告証據書類ノ説明スベシ
 被告ガ提起シタル、証據書類
 乙第一號証ハ、原告被告共ニ奉戴スベキ所ノ、三條
 ノ教憲ニシテ、被告ハ專ラ、此ノ教憲ヲ基礎トシテ、
 教會ノ擴張ヲ謀ルモノナリ
 乙第二號証ハ、元教部省ノ御布達ニシテ、元來我國
 ニ神儒佛ノ三道アリ、就中神佛兩道ニ、教導職アリ
 テ、三條ノ教憲ヲ、普ク民心ニ貫徹スルヤウニ、懇諭
 致スベキ旨ナレド、從前ノ神佛教導職ハ、怠惰ニシ

テ、其職ヲ盡サスルニシテ、其職ヲ盡サシトスルモ
ノアソビトモ、其説クトコロ高尚ニ失シ、全ク昏愚無
教ノ民ヲ教導スルト云フコトナシ、故ニ被告天理
教會ハ、本號証ノ御達ヲ奉シ、彼レ原告ガ未ダ教法
ヲ布カザル、無教ノ民ヲ懇諭シ、三條ノ教憲ヲ知ラ
シムルナリ

乙第三號証ハ、吾大日本帝國ノ憲法ニシテ、現在及
將來ノ臣民ノ敢テ犯スヘカラザルモノナリ、本文
中ニ、信教ノ自由ヲ有スト有ル限リハ、被告ガ云何
ヤウノ手段ヲ以テ、教ヲ擴ムルトモ、原告等ガ敢テ、
干涉スベキ者ニ非ラズ、強テ干涉シ、被告チレテ撲
滅セシメシテ、抔ト教チハ、此ノ憲法ニ抵觸シ原告ハ、

國家ノ大罪人タルベキナリ、由テ被告ハ多分ノ証
據ヲ要セス、乙第一號証ヨリ、全第三號証ニテ、充分
ナリト認ム

判事曰 原告ハ、此ノ外ニ、何ニカ証據アリヤ
原告曰 此ノ外ニ、証據トナルベキモノハ、全國ノ諸新聞諸

雜誌ニ登載ノ記事ナリ、然リト雖モ、餘リ澤山スギ
テ、冗長ニ渉ルノ恐アリ、故ニ略ス、由テ是レヨリ、被
告天理教會ノ、成立、及今日布教ノ模様等、一々被告
ニ尋問チ乞フ

判事曰 被告ハ、天理教會ノ成立、及ヒ今日布教ノ模様ヲ、一
々陳述スベシ

被告曰 此ノ天理教會ト申スハ、中々深キ教ニシテ、一朝一

夕ニ述ベ盛スコト能ハズ然レドモ緊要ノ處ニ説
 明ニ及マン抑モ天理教會ノ成立ハ、教祖ヲおみさ
 様ト申シテ、大和國、山邊郡、三島村、五番地、中村善平
 方ハ、十三歳マシテ嫁ス、出生ノ地ハ、三島村ヨリ、廿
 五町程南ノ方ナリ、此ノおみさ様、幼少ヨリ佛心深
 ク、又慈悲心深ク、近隣合壁ノ者ハ、皆ナおみさ様ヲ
 賞シテ、此ノ子ハ佛ケ様ノ如シト云ハレタリ、成人
 ス后テ嫁シテ、子三人ヲ儲ケ、晝ハ家業ヲ働キ、夜分
 ハ内職ニ小倉ノ鼻緒ヲ拵テ、僅カノ手間賃ヲ得
 テ其賃錢ヲ施スヲ以テ此ノ上モナキ樂トセリ、然
 ルニ隣家ニおみさ様ト全ク子ヲ三人産ヨスル
 人アリ其人乳少クシテ、子ヲ養育スルコト能ハズ

然レモおみさ様ハ、佛様ヲ御守ニテ、乳ハ澤
 山ナリ、依テ隣家ノ人々ガ貧ニ來ルニ、おみさ様
 ハ心ヨク乳ヲ與ヘタリ、然ル處、隣家ノ子ヲ三人産
 シタル人ハ、到底三人ノ子供ヲ養育スルコト能ハ
 ザルヨリ、一人おみさ様ニ預リ、呉レタキコトヲ願
 フ、おみさ様ハ夫善兵衛ニ隠シテ養育セリ、然ルニ
 其子黒色痘瘡トナル、おみさ様大ニ驚キ、大師様
 ヤ氏神様ヘ、願ヲ掛ケテ祈ルモ功ナシ、又タ二月堂
 ノ觀音様ヘ、三年三月ノ禮參リノ祈禱ヲナスモ効
 ナシ、依テ自分ノ産ミタル子三人ヲ身替トシ、尙自
 分ノ生命ヲモ捨テ、其病人ノ平癒スルヤウ祈ラ
 レタリ、其ノ時神佛感應マシテ、其子が平癒ス

ルト全時ニ自分ノ子一人ハ死去セリ、尙ホ其子八十歳迄壽命ヲ乞ヒタリ、是レハおみき様三十二歳ノ時ナリ

判事曰 被告天理教會ニテ尊崇スル所ノ天理王命ト申ス

ハ、云何ナル神ナリヤ

被告曰 國常立尊ヲ始メ、十柱ノ神ヲ總稱シテ、天理王命ト

申スナリ

判事曰 何人ガ其名ヲ附ケタルヤ

被告曰 夫レハ前ニ申シタル、おみき様ガ御年四十歳即チ、

天保九年十月廿六日ニシテ、其日天理教會、教祖おみき様ノ家ノミ、地震ノ如ク家屋震動シテ止マズ、此時おみき様ニ神様ガ乗移リナサレテ、サア

ト云ガ言ノ始マリニテ、國常立尊ヲ始メトシ、十柱ノ神ノ總名ヲ天理王命ト申スナリト仰セラレタ

判事曰 被告天理教會ハ何ヲ所依トシテ、布教シ云何ナル

方法ヲ以テ人心ヲ固結セシムルヤ

被告曰 教祖おみき様ノ仰ヲ傳ヘテ以テ天理王命ノ尊キ

コトヲ説キ、人心ヲ固結シ、會員ヲ募集ス

判事曰 教祖おみき様ノ仰トハ、如何ナルコトナリヤ

被告曰 教祖おみき様ノ仰セニハ、日ノ神ト月ノ神トガ世

界ヲ造リ、又我々ノ身体ヲモ造リ玉ヒタルコトナリ、又日ノ神トハ國常立尊ニシテ月ノ神ハ月讀命ト申ス、神様ナリト仰セラレタリ

月ハ水ヲ掌ル、日ハ火ヲ掌ル、水火アリテ万物養ハ
 ル、ナリ、故ニ日月ノ二神ノ御力ヲユテ我々ハ生
 活スルナリト、仰セラレタリ
 神ハ魂ヲ人間ニ授與サレタルモノナリ、故ニ我々
 ハ死スルト云フコト無キ筈ナリ、魂ニ死スルト云
 フコトナキガ故コト、仰セラレタリ
 六ヶ敷キコトハ云ハズ、毎日ノ暮シヲ考テ見ヨ、晝
 ハ働ラキ、夜ハ休ミ居ルナリ、人ノ死スルト云フモ
 夜ル休ミ居ルガ如クナリト、仰セラレタリ
 御歌ニ
 「いかほど、學問をどう云ふたどて見へてなきこと
 は知れまい」ト仰セラレタリ

又

「是れまで、心學古記あるけれども、本を知りたるも
 のいなし」ト仰セラレタリ

判事日

被告日

夫ハ誰レガ、云フタル言ハナルヤ

皆テ教祖おみき様ノ仰セナリ、是レマデ、木ヤ、石ヤ
 金ヤ、火ヤ、鏡ニ、入レ込メテ、守護スル神ガアルケレ
 ドモ、此度中村おみき様ノ五体ヲ、借リ受ケタル神
 ハ、眞實ノ神様ナリ、故ニおみき様ガ申ス言ハ、即チ
 眞實ノ神様ノ言ナリト、現ニおみき様御存命ノ時
 ニ、右様仰セラレタリ

判事日

被告日

天理教會、教祖おみきハ、何レノ年ニ死去セシヤ

明治二十年、舊正月二十六日ニ、死去セラレタリ、而

シテ教祖様ハ、此ノ天理教會御弘メノ爲メニ、一方
ナラヌ困難ナサレ、或時ハ獄ニ繋ガレ、或時ハ奈良
警察署へ拘引セラレタリ、然レモ神様ノ御守リニ
テ、方今教會モ開ケ、信徒モ多ク、御導キニナリタリ、
教祖ノ御戒メニ、曰ク

「山坂や、いばら、苦勞や、かけ道や、劔の橋も、通り抜け
たり」ト仰セラレタリ
又曰ク

「見る火の中もあり、淵の中もあり、其を越したら、小
路あり、段々越せば、大道あり、此れが慥かなる、本道
である」ト仰セラレタリ

判事曰 被告が是レマテ申シタル、十柱ノ神ノ名目ハ云何

被告曰 國常立尊、面足尊、國挾提命、月讀命、豐斟淳尊、惶根尊、

大戸道尊、大苦邊尊、伊邪那岐命、伊邪那美命、是レテ

十柱ノ神ト云フ、此ノ十柱ノ神ヲ總稱シテ、天理王

命ト名ケタルナリ

判事曰 天理王命トハ、何ニ因テ名ケタルヤ

被告曰 天理トハ、動カス意ナリ、王トハ國王ノ王ノ字ニテ、

唯一無ニテ尊崇シテ、天理王命ト名ケタルナリ

判事曰 十柱ノ神ハ、現ニアリシ神トスルヤ

被告曰 然リ

判事曰 何レニアリヤ

被告曰 昔シノコトニテ、我々ハ知ラズ

判事曰 國常立尊、面足尊、國挾提命、豐斟淳尊、惶根尊、大戸道

尊、大苦邊尊、ト申スル神號ハ、伊邪那岐、伊邪那美命
ニ尊成立ノ功績ヲ稱讚シタル尊號ニテ、別々ニ神
アルニアラズト、云フ論者アルガ、被告ハ是レヲ、云
何ニ解釋スルヤ

被告曰 我ガ教會ハ、學問ヲ以テ基礎トセズ、信仰ヲ以テ基
礎トスルモノ故ニ、右様ナル六ヶ敷コトハ知ラズ

判事曰 被告ハ祈禱ノ時ニ、踊リタリ、舞フタリスルト云フ
事下ヲ聞キシガ、右ハ何等ソ爲メナルヤ

被告曰 天照皇大神宮、天ノ岩戸ニ隠レ玉フ時ニ、賣女命ノ
舞ヒタルニ、類似スルナリ

判事曰 被告ハ祈禱ニ際シ、太鼓、三味線、琴、胡弓、横笛、摩リ金、
拍子木、チ打鳴ヲスト、聞キシガ、果シテ然ルヤ

被告曰 然リ

判事曰 何等ソ爲メニ、右様ナルコトヲ爲スヤ

被告曰 音楽ヲ奏シテ、神様ヲ慰ムルナリ

判事曰 他ノ神社ニ於テ、奏スル音楽ト、異ナルハ如何

被告曰 教祖ノ御拵ヲヒ玉ヒシ、音楽ニ付き、吾々ハ知ラズ

判事曰 天理王命ハ願ヲ掛ク、病氣ハ全快スルナリ、懷
孕ノ婦女モ、一枚紙ノ上ニ安ク分娩セシムト、云フ
様子ナリ、果シテ然ルヤ

被告 答ヘザシ

判事曰 天理教會ハ、天理王命ノ利益ヲ戴キ、病者ニ醫藥ヲ
廢セザト云フコト、喜ラ世上ノ風説ナリ云何

被告曰 教會ヲ擴張スルニ就テ間ニハ、右様ノ手段ヲ以テ

スルコトモアタラシク、頃日ハ少々改良致シ、無暗

ニ醫藥ヲ廢セトモ云ハズ、然ラハ神ノ利益云云ハ、全ク虚言ナルカ

判事曰

被告曰

然ラハ神ノ利益云云ハ、全ク虚言ナルカ、御守ト醫藥ノ
否ナ虚言ト云フニハアラズ、神様ノ御守ト醫藥ノ
カヲニテ、病氣モ全快シ亦外ニ種々ノ不思議アリ

判事曰

被告曰

其不思議トハ、云何ナル事ナリヤ、先ツ第一ニ此ノ天理
其ハ實ニ種々ノ不思議アリ、先ツ第一ニ此ノ天理
教會ニ這入シ、心ハ柔和ニナリ、他人ト口論セズ
様ニナリ、他人ガ此ノ天理教會ヲ邪教ナリ、妖教ナ
リ、四ツ足教ナリト云フトモ決シテ議論ハ致サズ、
其位ヒ耐忍ガ強キ故ニ願ツテ家内モ亦タ和合シ、
家内和合スルガ故ニ、此教會ガ一村ニ擴マレバ、一

村和合シ、一國ニ擴マレバ、一國和合ス是レ即チ、當
教會ノ長所トスル所ニシテ、又天理王命ノ御利益
ナリト云フ可キナリ

判事曰

被告曰

然ラハ天理教會ハ、他人ヨリ云何ナル評ヲ受ケル
モ怒ラヌト云フナ、第一ノ長所トスルヤ
然リ

判事曰

原告曰

原告其方モ今聞ク如ク、被告ニ對シテ、一々訊問シ
テ、此ノ外ニ原告ハ何ニカ、立証スルコトアリヤ
被告天理教會ノ成立、及ヒ今日布教等ノ模様等ハ、
凡テ承ハリタレ、其ノ言フ所曖昧ナルアリ、亦道
理ニ反對スル所アルヲ以テ、此ノ上ハ、証人トシテ、
日本國學者、漢學者、佛學者、ヲ呼出シ、又事實參考人

トシテ、天理教會教導職、講元、及信者等ヲ呼出シ、逐
一訊問ナクフ

判事曰

然ラハ原告ノ請求ヲ至當ト認ムル故ニ、日本ノ國

學者、漢學者、佛學者ヲ呼出シ、又事實參考人トシテ

天理教會ノ、教導職、講元、及ヒ信者等ヲ呼出シ、訊問

ノ上、證據決定ス

ノ上、證據決定ス

眞理之裁判

証人訊問調書

原告 社會公平
被告 天理教會

妖教撲滅之訴訟ニ關スル、証人及參考人ノ訊問

証人 國學者

証人 漢學者

証人 佛學者

參考人 天理教會教導職

參考人 天理教會講元

參考人 天理教會信者

判事曰 大日本國學者、漢學者、佛學者、這回原告社會公平

リ、被告天理教會ニ對スル、妖教撲滅ノ訴訟ニ就キ、
其方共証人トシテ、取調ルニ由テ、何事ヲモ默セズ、
又何事ヲモ附加セズ、宣誓シテ、証言スベシ

國學曰

天理教會ノ立ツル、十柱ノ神、即チ、國常立尊、面足尊、
國挾提命、月讀命、豐斟淳尊、惶根尊、大戸之道尊、大苦
邊尊、伊邪那岐命、伊邪那美命、ヲ總稱シテ、天理王命
ト云フハ、渠等ノ捏造妄言ナリ、第一國常立尊トハ、
葦牙ノ元靈ヲ稱ヘ奉ル尊號ナリ、第二面足尊トハ、
容貌威儀ノ備ハリタル意ニシテ、地面満足セル時
ノ稱ヘ奉ル尊號ナリ、第三國挾提命ト申スハ、海水、

充滿洲壤、稚々シク遊ヘル、魚ノ如ク、物ノ既ニ凝堅
セシトシテ、立初ル場ナレバ、其狀ヲ直サマ、稱ヘ奉
ル尊號ナリ、第四月讀命トハ、天照皇大神ヲ稱ヘル
ニヤ、未ダ月讀命ト稱ヘ奉ルコトヲ聞カズ、大日靈貴
ト稱ヘ奉ルナリ、第五豐斟淳尊トハ、大地ナル物質
ノ漸ク凝リ堅マリテ、物ノ初メテ、發生セントスル
ヲ云フ、斟ハ(くひ)くみ(こり)トノ意ヲ以テ、稱ヘ奉ル
尊號ナリ、第六惶根尊トハ、大地具足セルヲ、驚嘆威
懼ノ意ニシテ、水火木金土ノ功績ニ就テ、稱ヘ奉ル
尊號ナリ、第七大戸之道尊トハ、大地凝結シテ、人ノ
住居シ得ルヲ、稱ヘ奉ル尊號ナリ、第八大苦邊尊ト
ハ、大殿ノ意ニシテ、家屋ノ成ル故ニ、稱ヘ奉ル尊號

ナリ、第九伊邪那岐命、第十伊邪那美命二神ハ、誘フ
 ト云フ意ニシテ、男女互ヒニ誘ヒ合テ、夫婦交接ノ
 道ヲ始ム、又岐ハ陽ニシテ、美ハ陰ノ音ナリ、是レ男
 女ノ稱ナリ、然ルニ天理教ハ、天ハ陰、地ハ陽、男ハ陰、
 女ハ陽ナリト云フハ、天地陰陽ノ顛倒シタル、妄言
 ノ甚シキモノナリ、宜ナル哉、天理教ト云フヨリ、顛
 倒ノ顛ノ字ヲ用ヒテ、顛理証、又顛理教ト云ベシ、即
 チ理ヲ顛倒スル教ナルガ故ニ、該當タル言ト云ベシ
 ヲ、以上説明スル如ク、天神七代ノ、伊邪那岐伊邪那
 美ニ尊ノ、以前ノ尊號ハ、伊邪那岐伊邪那美ニ尊ノ、
 成立ノ功ヲ稱贊シタル尊號ナリト、國學古老ノ定
 論ナリ、然ルニ天理教ハ、一々現在ノ神ノ如ク、理神

號タルヲ知ラズ、實ニ愚ト云フベシ、殊ニ日神ハ國
 常立尊ト稱ヘルハ、國學ヲ知ラズ、愚盲ノ甚クシキ
 ヲノナリ、日ノ神トハ、大日靈貴命ニシテ、月ノ神ハ
 次ニ生レ、日ノ神補佐ノ臣トナリ給フ、是レ臣下ノ
 始メナリ、故ニ公卿ヲ稱シテ、月卿雲客ト申ス、月卿
 モ此ノ故事ヨリ始マル故ニ、天理教會ノ申ス、
 悉皆妄誕邪說ナリ

判事曰

証人、漢學者ハ、被告天理教ノ云フ處、及其行爲ヲ以
 テ、儒道ノ教ニ通フモノト、認ムルヤ如何

漢學曰

然ラズ

判事曰

其理由ヲ、簡單ニ、陳述スベシ
 抑モ我漢學ニ於テ、思ヒ無邪ノ三字ハ、詩三百篇ノ眼

漢學曰

目ナリ、毋不敬ノ三字ハ、禮記一部ノ根本ナリ、欽ノ一字ハ、尙書ノ一義ナリ、時ノ一時ハ、周易六十四卦ノ本意ナリ、勸善懲惡ハ、春秋ノ綱領ナリ、吾道以一贯之、論語ノ深意ナリ、中和ト誠ハ、中庸ノ極切ナリ、明德至善ハ、大學ノ心法ナリ、性善養氣ハ、孟子ノ工夫ナリ、然リ而シテ、荀子モ心ハ形ノ君ナリ、神明ノ主ナリ、云云孔子曰不語怪力亂神ト然ルニ、天理教ハ火ガ降ルト云フテ、愚民ヲ迷ハスハ、邪妄ノ甚シキナリ、孔孟仁義ノ正道ニ背ク者ナリ、谷永曰、明ニ天_ニ地_ノ性_ニ不可_レ惑_フ以_ニ神怪_ヲ知_リ萬物之情_ニ不可_レ罔_ス以_ニ非類_ト云フ、天理教ハ此言ニ背クモノナリ、又文字ヲ無用トシテ、學事ヲ廢セト云フハ、此レ甚ク惡ムベキ語

ナリ、學記曰不_レ知_ラ道_ヲ、是故古之王者建_レ國_ヲ君_レ民_ニ教_レル_ヲ學_ヲ爲_レ先_トアリ、孔子曰朝_ニ聞_レ道_ヲ夕_ニ死_ストモ可_ナリ矣トマデ、申サレタリ、之レニ由テ、是レヲ觀レバ、天理教ハ、道ヲ外ニスル、惡魔ナリ、文明ヲ害スル大罪人ナリ、証人、佛學者、其方ハ、被告天理教會ガ、口ニ云フ處、身ニ行フ處ヲ以テ、眞理ニ合フモノト、認ルヤ否ヤ

佛學曰 否

判事曰 然ラバ、一應其方ノ信ズル、佛教ノ大意ヲ、極簡單ニ、陳述シテ、被告ノ云フ處ハ、果シテ非說虛言ナルヤ、否ヤヲ証言スベシ

佛學曰

抑モ我が佛教ハ、始メ華嚴ヨリ、方等般若法華ノ唯一大乘ヲ説キ、終リ涅槃經ニ至ルマデ、哲學ノ本源、

眞理ノ極致、談羅ニテ洩ラサズ、今ヤ其一ニテ舉グ
 レバ、涅槃經曰、一切衆生悉有佛性、華嚴經曰心、如工
 畫師、畫種種々五陰一切世界中無法、而モ不造、如心佛
 亦然、如佛衆生亦然、心佛衆生、是三無差別、又曰三界
 唯一心心外無別法、又曰如心佛亦爾、衆生亦然、應知佛
 與心體性皆無盡、又法數曰一心、一念、心、心性周徧
 虛徹、靈通、散、之、則應三万事、歛、之、而成一念、是故若
 善若惡、若聖若凡、無不皆由此心、以心本具、法
 法而能成、立衆事、正法念經曰心地者佛言三界之中
 以心爲主、法華經曰諸法住法位世間相常住、說キ
 玉ヘリ、斯ル深遠微妙ノ事法界ヨリ、事々無碍法界
 ニ入ル、眞妙ノ哲理ナル故ニ、一神教ヤ、邪妄多神教

ノ外道等モ、舌ヲ卷テ逃グ出シ、強情ナル耶蘇基督
 教モ、天憲ヲ據ル事ハ出來ヌ、閉口ノ始末ハ、哲學社
 會上、明白ナリ、天理教ノ如キハ、窃盜神道ノ名ニシ
 テ、野蠻未開ノ愚盲教ナリ、佛教哲理ノ權衡ニ、懸ル
 所ナキ教ナリ、以來ハ、斯ル馬鹿者ヲ相手ニ、証人ニ
 出ルハ、大人氣ナキ次第ニテ、哲學社會ニ面目ナシ、
 此様ナル馬鹿者共ノ申スコトハ、三尺童子ト雖モ、
 能ク知レリ、故ニ高尚ナル佛教ヲ以テ、証人トスル
 ハ、恰モ雞ヲ割クニ、牛刀ヲ用ユルガ如シ、渠等天理
 教ニ取テハ、過分ナリ

判事曰 事實參考人トシテ、天理教會、教導職、講元、及信者ヲ
 取調ルニ由テ、虛言ヲ申サヌ様一々訊問スルコト

ヲ答辨スベシ、先第一天理教會教師等ハ、是マデ、何
ヲ職業トシテ居タルヤ

教師曰 私シ共ハ、是マデ、水呑百姓ニテ、小兒杯モ澤山アリ、
生活ノ道ニ、殆ント困難ヲ致シ、小作米モ満足ニ納
ムルヲ能ハズ、終ニ地主ヨリ、田畑ヲ取リ揚ケラレ、
實ニ困窮シテ居リシ處、或ル人ノ勸メニ依リ、天理
教會ニ加入シ、夫レヨリ又他ヲ勸メ、其功ニ因テ、教
導職ニ補セヨレ、全ク今日ニテハ、天理王命ノ御蔭
ニテ、私共及女房子供マデ、安穩ニ糊口ヲ凌ギ居ル
ナリ

判事曰 其方ハ教導職ニマデ、補セラレテアレハ、何ニカ、能
ク辨ヘテ居ルナラン

教師曰 否ナ、元ヨリ無學文盲故ニシテ、一丁文字ヲモ解ス
ルヲ能ハザレハ、何ノニモ、存シマセヌ

判事曰 天理教會ノコトモ、知ラヌカ

教師曰 然リ

判事曰 若シ他ヨリ、天理教會ノコトヲ、委シク説キ示セト
云ハバ、云何ントスルヤ

教師曰 其ノ時ハ、大和國ノ、天理教會本部ニテ、御尋子クダ
サレト、申スノミ

判事曰 其方共ハ、天理王命ヲ信仰シテ、何ニカ利益ヲ蒙リ
シコトアリヤ

教師曰 有リ

判事曰 云何ナル、利益ヲ、受ケタルヤ

教師曰 天理王命ノ御利益ト云フハ、私共ガ今日教導職トナリシヨリ、女房ヤ子供マデ天理教會ノ御蔭ニテ立派ニ日暮シテ居ルハ、實ニ是レ、天理王命ノ御利益ナリ

判事曰 其方ノ頭ヲ見ルニ、普通人民ト異ナリテ、大ナル丁チヨシ騒ワザノアルハ、云何ナル理由ナルヤ

教師曰 コレハ、國体ヲ維持スルノ、趣意ナリ

判事曰 天理教會之講元等、其方達ハ、平素何ヲ職業トシテ暮スヤ

講元曰 私共ノ職業ニハ、種々アリ、中ニハ立派ナル商人アリ、又長屋住居ノ鹽濱稼人アリ、山稼カセギスルモノアリ、或ハ漁師杯ヲ職トスルモノアリ、又ハ入ニ雇ハ

レ或ハ車夫ナドシテ渡世スルモノモアリ

判事曰 其方達ハ、云何ニシテ、天理教會へ加入シ、又云何ニシテ、該教會ノ世話ヲシテ、講元杯ヲスルヤ

講元曰 私共ガ天理教會へ加入シ、又世話ヲシテ、講元トナルニ就テハ、亦種々ノ原因アリ、今其一二ノ大略ヲ舉グレバ、先ツ天理王命ノ御利益ニテ、愛子セガレノ病氣ヲ平癒サシテ戴キ、或ハ天理王命ノ御蔭ニテ、女房ノ産ガ輕クナリ、或ハ自分ノ眼病ガ平癒致シ、旁々以テ天理王命ハ、有リ難キモノト思ヒ、信仰シ、又該教會ノ爲メニ世話ヲ爲スナリ

判事曰 右様ナコトガ、道理ニ適フカ
講元曰 私共ハ愚痴文盲ナル故ニ、道理ニ適フカ、合ハヌカ、

其所ハ知ラズ、凡ヘテ教會ニ關スル、六ヶ敷キコト
ハ、天理教會ノ會長或ハ組長ト云フ様ナル重立^{オモケチ}タ
ル人ニ尋問アルベシ

判事曰 天理教會ノ信者共、其方達ハ云何ナル譯ニテ、天理

王命ヲ信仰スルヤ

信者曰 私共モ種々ノ原因ヨリ、天理王命ヲ信仰致スナリ

判事曰 其種々ナコト、云フノヨニテハ解ラヌ故ニ、逐一

説明セヨ

信者曰 私共ガ天理教會ヘ加入致シタル譯ハ、此天理教會

ニテ、實ニ面白ヒ踊リヲ致ス、故ニ私共ノ娘ハ其ノ

踊リヲ好ミ、頻リニ天理教會ヘ加入致度ト申シ、又

天理教會ノ教師達ガ、吾々ノ娘ヲ愛シテ、親切ニ踊

リヲ教ヘテ下サル故ニ、子ニ引カサル、親心トヤ

ヲ、終ニ家内殘ラズ、天理教會ヘ加入ヲ致シタル者

モアリ、又先日已來、耳ガ少シ聞ヘヌト云フテハ、天

理王命ヲ信仰シテ居ルモノモアリ、又眼病ヲ煩ヒ

シヲ以テ、天理王命ヲ信仰シテ居ルモノモアルナ

判事曰 眼病ヤ、耳ノ聞エヌモノガ、天理王命ノ御利益ニテ、

全快セシヤ

信者曰 否ナ、未ダ全快ハ致サズ、故ニマダ信心ガ足ラ

ヌト、中間ノ衆ガ言ヲ揃ヘテ云ヘリ

判事曰 併シ天理王命ヲ信シテ、少シハ病モ輕クナリシヤ

信者曰 否ナ、頃日教師ヤヲ、先生ヤヲ、中間ノ衆ガ祈禱シテ

眞理之裁判

口頭辯論

原告 社會公平
被告 天理教會

妖教撲滅之訴訟ニ關スル原告被告口頭辯論

判事曰 前回ニ引續キ、妖教撲滅之訴訟ニ關スル、原被双方

ノ口頭辯論ヲ許ス

原告曰 被告天理教會ハ、乙第一號、第二號ヲ証トシテ、被告
等ノ行爲ハ、專ラ三條ノ教憲ヲ奉戴シ、神道管長稻
葉正邦ノ許可ヲ得テ、世ニ公ニスル者ナリ云云ト、
云ヘリ然レモ、是レハ之レ、表面上ノミ、若シ夫レ、裏
面ヨリ、之ヲ探檢スレバ、即チ神道ノ名稱ヲ竊盜シ

タル者ト、云ハザルヲ得ズ
 抑モ、我國ノ神道トハ、恐レ多クモ、帝室皇典ノ教義
 ナリ、神カシナガ隨ナリ、祖宗ノ威烈ヲ承ケ、祖宗ノ惠撫慈養
 ナ履行シ、國家ノ丕基ヲ鞏固ニシ、八洲民生ノ慶福
 ナ増進スルノ旨趣ニシテ、質素ニシテ國ヲ富マシ、
 明照ニシテ尊嚴ヲ、海外萬國ニ輝カシ、正直ニシテ、
 人々日本魂ヲ、練磨スルコアリ、
 然ルニ、彼レ天理教會ハ、野蠻ノ教ヲ弘ムルニ、恐レ
 多クモ、神道ニ托シ、不敬ニモ十柱ノ神ヲ、十把一束
 ニシテ、天理王命ト、私ノ名稱ヲ附シ、皇典ヲ蔑如シ、
 神道ノ名譽ヲ毀損シ、國體ヲ害カル、大罪人ナリ
 次ニ天理教會ハ、乙第三號証トシテ、日本帝國ノ憲

法ヲ提起シ、吾人ガ攻撃スル防禦ノ楯トシ、信教自
 由云云ト、論シ去リ論シ來ルト雖、元來憲法ノ信教
 自由ノ章條ニ據レバ、日本臣民ハ、安寧秩序ヲ妨ゲ
 ズ、及ビ臣民タルノ、義務ニ背カザル限りニ於テ、云
 云トアリ

右ニ付き憲法正解ニ曰ク

我國ニ於テ如何ナルモノヲ以テ國教トセラル
 、カハ之ヲ知ルニ由ナシト雖、元來宗教ナル
 モノハ、人民ノ自由ニ信奉スルニ任セ、政府ノ關
 涉スヘキモノニアラズ、然レ、凡愚昧朴直ノ人民
 稍モスレバ、宗教ニ迷醉シ、遂ニ臣民タルノ本分
 ナ忘レ、國家ノ安寧ヲ妨ゲタルコトハ、歴史上ニ存

スル所ニシテ此ノ如キ場合ニ於テハ政府ハ之
 ニ關涉スルノ權ヲ有スルヤ明ラカナリ故ニ本
 條ニ於テ一ハ信教ノ自由ナルコト示シ一ハ其
 自由ノ爲メ國家ノ安寧秩序ヲ紊シ臣民タルノ
 義務ニ背クベカラザルコトヲ定メテレタルモノ
 ナリ

此シニ由テ之ヲ觀レバ憲法廿八條ニ於テ信教ノ
 自由ヲ有スト雖モ亦制限アルナリ何ゾヤ曰ク社
 會ノ安寧秩序ヲ妨ダザルコト曰ク臣民ノ義務ニ
 背カザルコト是レナリ然ルニ彼レ天理教會ハ自
 分勝手ニ信教自由ノ勅語ヲ摘用シテ本條ノ全体
 ニ注目セザルハ愚盲者ト云ハソ手將々狡猾兒ト

云ハソ手試ニ彼等ノ行爲ニ就テ論ズレバ父母夫
 婦兄弟姊妹ノ情義ヲ破リ病者ヲ苦難ニ陥シ井レ
 人倫ノ大道ヲ破壊シ國典情義ヲ害スル惡人ニシ
 テ之レ即チ安寧秩序ヲ妨グル所ノ大罪人ナリト
 云ハザルヲ得ズ

今數百步ヲ讓リ假リニ天理教會ハ完全ナル組織
 ニシテ神道管長ノ認可ヲ得タルモノナルヲ以テ
 之ヲ我國ニ擴張スルハ敢テ法憲ニ抵觸セザルモ
 ノトスルモ該教會ノ教師或ハ講元等ノ談柄ヲ聞
 クトキハ抱腹絶倒ニ堪ヘザル愚昧ノ說ノミニニシ
 テ實ニ良民ヲ愚ニ導キ愚ハ益々愚ナラシメ人智
 ノ發達ヲ妨グルコト大ヒニシテ是レ我國文明ノ

大罪人ト云ハザルヲ得ザルナリ
 彼レ天理教會ガ口ニ語ル所身ニ行フ所チ外國人
 是レチ見聞セバ云何ナル感覺チ起スヤ外國人ハ
 果シテ云ハシ日本ハ野蠻……日本ハ未開……云
 云ト評スルハ必定ナリ此ノ東洋文明國タル日本
 帝國ヲシテ野蠻國未開ノ國ナリ云云ト不祥ノ語
 チ彼レ外國人ノ口ヨリ出サシムルモノハ夫レ天
 理教會ナルカ思フテ茲ニ至レバ吾人ハ彼等ノ肉
 チ^多剝^カリ骨チ咬ムモ尙ホ足ラズ實ニ國家ノ爲ニ切
 齒扼腕慷慨悲憤ニ堪ヘザルナリ
 維新以來外國ヨリ渡來シタル耶蘇教ハ想像ノ宗
 教ナリ哲理ニ合ハザルナリ文明チ害スルナリ云

云トハ是レ世人ガ最モ力ヲ盡シテ攻撃スル所
 ニシテ吾人モ亦其一入ナリ然リト雖ドモ耶蘇教
 ハ外國渡來ノ宗教ナレバ該教ノ不完全ナルハ是
 レ外國人ノ耻辱ナリ彼レ天理教會ハ吾國土ニ雜
 草ノ如ク發生シタルモノナレバ該教ノ不完全ハ
 即チ吾日本ノ耻辱ナリ果シテ然ラバ國ヲ思ヒ世
 チ慨スルノ徒豈ニ黙止スベケンヤ
 故ニ吾人ハ斷シテ云フ彼レ天理教會一日吾國ニ
 存在セハ國家一日ノ汚辱ナリ彼レ一ヶ月存在セ
 ハ國家一ヶ月ノ汚辱ナリ彼レ一年存在セハ國家
 一年ノ汚辱ナリ然リ而シテ彼レハ野蠻的愚昧ノ
 說チ流布スルチ以テ吾國ノ文明進步チ害スルコ

トモ、又大ナレハ、彼レ一日吾國ニ存在セハ、一日國家文明ノ害ナリ、一ヶ月存在セハ、一ヶ月國家文明ノ害ナリ、一年存在セハ、一年國家文明ノ害ナリ、然リ而シテ、天理教會信者等ハ、動モスレハ、祖先傳來ノ佛檀ヲ毀チ、其ノ佛像位牌ヲ、水火ニ投スルモノアリ、或ハ石塔ヲ賣却スルモノアリト聞ク、嗚呼之レ何等ノ所業ゾヤ、抑モ俗家ニ佛檀ヲ設クルハ私シヤトニ非ラズ、恐レ多クモ、天武天皇ノ勅命、(歴史曰詔諸國每家作佛舍安置佛像及經以禮拜供養)アリ、以テ吾神國トモ稱スル、日本ノ民間ニ於テ、毎戶佛檀ヲ設ケタルナリ、然ルニ天理教會ハ、蓋リニ佛檀ヲ毀チ、或ハ佛像ヲ水火ニ投ズ

ル杯トハ、之レ實ニ遺勅ノ大罪人ト云ハザルヲ得ズ、又父母祖先ノ位牌石塔ヲ毀チ、或ハ賣却スルガ如キ所業ハ、道德ヲ破ルノ最モ甚シキナリ、彼レ天理教會信者等、何ニヨリテ、此ノ世ニ生レ來ルヤ、何ニヨリテ、其家ヲ相續シ居ルヤ、考セヨ、其身ハ父母ノ賜ニシテ、其家ハ祖先ノ賜ナルコトヲ咄噫、天理教會信者ヨ、汝等ハ、兩足ヲ以テ歩行シ、兩手ヲ以テ職ヲ營ミ、五音ヲ以テ通ズルコトヲ得ル人類、否々身ヲ切テ、血ノ出ル程ノ動物ナレバ、少ク父母祖先ノ惠恩ヲ知ルベシ、父母祖先ノ惠恩ヲ知ラバ、必ズ其ノ位牌石塔ヲ保存シテ、其餘德ヲ追慕スベキ筈ナリ、天理教會信者等ハ、其レ之ヲ奈何ト

スルヤ、若シ幸ニシテ、後悔ノ情起ラバ、直チニ正法ニ立チ歸リ、父母祖先ノ遺旨ヲ繼紹シ、忠孝仁義ノ道ヲ履踐シ、吾國特殊ノ美風美俗ヲ未來永遠ニ發達セシムベキナリ、然ラザレバ、汝等ノ心願ハ、現身ニ畜生道ニ墮チテ、二劫三劫ニモ、三寶ノ名字ヲ聞カザルノミナラズ、終ニ解脱ノ期アルベカラズ、哀レト云フモ、ナカク、愚カナリ

論ヲ去リ論ヲ來ラバ、彼等果シテ云ハシ、父母祖先ハ、己ニ死シ去リ此ニアラズ、位牌石塔ハ、木石ヲ以テ、後人ノ作レルモノナリ、其ノ木石ト父母祖先ト何等ノ關係アルニ非ズ、故ニ之ヲ火ニシ、之ヲ水ニスルモ、何ソツ怪ムニ足ラント、嗚呼是レ何ソト云

フコトアヤ、西洋ニ於テスラ、拿破^レ列翁^ノ墳墓ヲ過クルモノハ、皆脱帽シテ禮ヲ爲シ、又和盛^ノ頌^ノ墳墓ニ參拜シテ、敬禮ヲ盡スモノ、アルニ非ズヤ、亦彼ノ有名ナル、十字軍ノ如キハ、即チ耶蘇教徒ガ、教祖耶蘇ノ死處タル、即撤路^ニ冷^ニ恢復セント、欲シタルヨリ、起リシ戰爭ニシテ、耶蘇ハ既ニ在ラザルモ、其地ハ、尙ホ之レガ爲メニ、神靈ナリト思惟セシニ、本ツクナリ吾人ハ宗教社會ニ於テ、彼ノ十字軍ノ如キ血戰ヲ爲スヲ、好ムニ非ズ、唯其ノ人情ノ存ズル所ヲ示スノミ、以上ハ西洋ノ比例ナリ、更ニ進ンデ吾國ノ例ヲ擧ゲンニ、抑モ、天皇陛下ヲ始メ、伊勢兩大神宮ノ宗廟、及ヒ歷代帝王ノ陵ヲ、尊崇シ玉ヒ

ハ、實ニ之レ我國體ニ存スル所ヲ知ラシメ、吾人
 臣民ノ以テ盡スヘキ忠孝仁義ノ道ヲ教ヘ玉フナ
 リ、其他英雄豪傑ノ肖像ヲ街頭ニ建ツルモ、名士ノ
 相貌ヲ新聞雜誌ニ載スルモ、聖賢ノ筆蹟ヲ愛翫ス
 ルモ、皆其人ヲ愛敬欽慕スルノ情ニ出テタル者ニ
 レテ、之レ即チ道德上、最モ必要ノコトナリ、然ルニ
 天理教會信者ノ爲ス所、此ニ出デズシテ、父母祖先
 ノ位牌ヲ竄略ニシ、或ハ佛壇ヲ毀テ、或ハ石塔ヲ賣
 却スルガ如キノ所業ハ、是レ德義ノ惡人ニシテ又
 我國ノ秩序ヲ破ル大罪人ナリ
 論ニテ此ニ至レハ、天理教會ハ、又果シテ云ハシ此
 ノ天理教會ニ於テハ、佛壇ヲ毀テ、祖先父母ノ位牌

ヲ、水火ニ投ズルガ如キ所業ハ、毫モナキコトニシ
 テ、畢竟異教者ノ捏造ナリト、之レ即チ彼等ガ、一時
 ノ遁辭ニシテ、實際上然ラザルヲ云何セシ、借問ス
 是ヲ之レ、異教者ノ捏造ナリト云ハ、天理教會信
 者ハ、之レマデ父母祖先ノ爲ニ、云何ナル敬禮、云何
 ナル、供養ヲ以テ事フルヤ、天理教會ノ教師云ハズ
 ヤ、吾人ノ身体ハ、天理王命ノ賜ナリ、日月ヨリ借用
 レタルナリト、恰モ耶蘇教ノ、天賦説ニ模擬シテ、喋
 ヲセリ、若シ夫レ世人之ヲ信ズル事、彌々深ケレハ、
 必ズ天理王命アルヲ知テ、父母祖先アルヲ忘ル、
 ニ至ルハ、之レ吾人ノ辯論ヲ待タザルナリ
 終リニ臨ンデ、一言シテ局ヲ結ハシ、今ヤ天理教會

吾人が攻撃ヲ防ガント欲シテ、無禮ニモ三條ノ
 教憲ヲ以テ、矛トシ、無法ニモ帝國ノ憲法ヲ以テ、楯
 トシ、籠城スルノ情況ナリ。然リト雖ドモ、其實際ニ
 就テ論ズレバ、彼レハ已ニ道德ノ國ハ破ブレ、正理
 ノ家ハ倒レ、公道ノ路ハ失ヒ、遂ニ國体ノ存スル所
 ナ忘レ、單ニ皮相的^{チヨウワク}ノ、丁番アルヲ以テ、國体ヲ維持
 スルモノト誤解シ、姪亂婆ノみき女ガ、狐狸ト狎合
 ノ上ニ發言シタル所^ト、妖怪奇異、妄談非説、ノ譚話
 ナ以テ、人心ヲ惑亂シ、日月ノ二神ガ、世界ノ造リ主
 トノ妄言ヲ唱ヘ、人間ノ五体ハ日月ヨリノ借用ナ
 リトノ怪説ヲ語リ、心學道話ノ説ヲ竊盜シ、天理教
 會特有ノ教義ノ如ク流布シテ、恬^{テン}トシテ耻チズ、野

被告曰

卑拙劣ノ俗歌ヲ唄ヒ、神樂ト稱シ、一丁文字ヲモ解
 スル事能ハザル、無學文盲ノ者ニ、教導職ノ稱號ヲ
 許シ、妄リニ病者ノ祈禱ヲ爲サシメ、而シテ吾人等
 ガ、天理教會ノ教義ニ付キ、質問スレバ、教導職等ハ
 三十六計ノ、秘術ヲ盡シテ逃亡シ、講元等ハ、大和國
 本部ニ至テ、問フベシト云ヒ、信者等ハ腕力ニ訴ヘ
 テ、質問者ヲ迫害シ、實ニ吾人ガ黙セント欲シテ、黙
 スル能ハザル所以ニシテ、是レ即チ眞理之裁判ニ、
 訴フル要領ナリ

原告社會公平ハ、云何ナル私怨有ツテカ、天理教會
 ノ名譽ヲ傷ケント欲シテ、種々ノ証據ヲ擧ゲテ、攻
 撃スルト雖ドモ、被告天理教會ハ、答辯書列記ノ如

ク、三條ノ教憲ヲ奉戴シ、且ツ神道管長ノ許可ヲ得
 テ、之ヲ世ニ弘ムルモノナレバ、決シテ之ヲ排斥シ、
 撲滅スルコト能ハザルモノナレバ、原告ガ、當眞理
 裁判所へ、訴フルハ實以テ、不當ナリト云ハザルヲ
 得ズ、假リニ之ヲ至當トスルモ、被告教導職、及講元
 信者等ハ、何レモ無學文盲ナルモノニ付、原告社會
 公平ヲ、害セントスル程ノ、深キ思案アルモノ一人
 モ無ク、只一時ノ糊口凌ギノ爲メニ、天理教會へ、這
 入タル者故ニ、原告ガ申立ノ如キ、罪人ニハ非ズ、亦
 原告ガ要求スル所ノ、五大洲ノ各首府都會ノ地へ、
 被告自カラ派出シテ、謝罪演説ヲ爲スノ理由ナク、
 斯ノ如キハ到底今日ノ被告ノ能ハザル所ナレバ、

本案原告ノ訴訟ハ、悉ク正當ナラザルヲ以テ、本訴
 ヲ排斥アリタシ

判事曰 原告被告双方トモ、已ニ辯論盡キタレハ、是ニテ審
 問ヲ終結シ、追テ判決ノ申渡シヲ、爲スベシ

眞理之裁判

判決正本

原告 社會公平
被告 天理教會

右當事者間ノ、妖教撲滅ノ事件ニ付、當眞理裁判所ハ、判決ス
ルニト左ノ如シ

主 文

被告ハ、原告請求ノ通り、妄言ヲ吐キ、人心ヲ惑亂シ、社會ノ秩
序ヲ紊シ、正理公道ヲ害スルモノニ付、速カニ撲滅スベシ、而
シテ、被告ハ原告社會公平ニ與ヘシ、損害賠償ノ爲メ、亞細亞、
歐羅巴、亞米利加、亞非利加、澳西、太利、等五大洲、各首府都會ノ
地ニ於テ、被告自カラ派出シ、原告ガ請求スル、謝罪演説ヲナ

スベシ、被告ガ之レヲ履行セザルトキハ、原告ハ本案ノ頗末
ヲ世ニ公ニスベシ

事實

原告ハ、昔テ社會公衆ノ爲メニ、口ニ正理ヲ説キ、身ニ公道ヲ
行ヒ、以テ社會ノ有害物ト、認ムルトキハ、道理ニ正シ、眞理ニ
断ヘ、而シテ國家ノ安寧ヲ祈リ、生民ノ幸福ヲ、増進スルノ目
的ヲ以テ、教會講社等ヲ、探檢スルニ、爰ニ天理教會ナルモノ
アリ、根元ハ大和國ニシテ、山城、河内、紀伊、攝津ヲ、始メ各地方
ニ、蔓延シ、今尙ホ勢ヒ益々盛シナルガ如クナリ、然リ而シテ、
該天理教會ハ、專ラ天理王命ヲ信仰シ、該信者等、時々相ヒ集
リテ、御手振歌ト稱シ、拙劣ノ俗歌ヲ唄ヒ、男女入り亂レテ、舞
ヒ踊ル有様ハ、狐狸ニ魅マサレタルモノ、如クニシテ、吾日

本帝國ノ風俗ヲ害スルコト少ナカラズ、該教會ノ教師、或ハ先
生ト稱スル者ハ、無資格不明者多ク、其信者ハ、無學文盲ニシ
テ、天理王命ノ御利益ヲ戴キ、病氣平癒シタリト、妄信スルガ
如キ愚迷者ナリ、試ミニ該信者等ノ、情況ヲ見ルニ、家ヲ破リ、
産ヲ失ヒ、顔色衰ロヘ、形容見ルニ堪ヘザルノ病夫カ、然ラズ
シバ、眼病者、若シクハ、白髮ノ老婆ニ多ク、天理王命ノ利益ヲ
妄信シテ、流涎シ居ルナリ、然リ而シテ、是ノ如キ白痴者、動モ
スレハ、地方ノ教育ヲ妨害シ、或ハ大金ヲ抛テ、會堂ヲ築キ、已
レノ財産ヲ破ルモ、恬トシテ顧ミズ、表ニハ、曰ク神道直轄ナ
リ、曰ク稻葉教正ノ許可アリ、曰ク三條ノ教憲ヲ宣布スルナ
リ、曰ク信教自由ナリト、非テ覆テ此レガ潤色ヲナスト雖モ、
裏ニハ、佛敎ニ非ラズ、儒敎ニ非ラズ、又神道ニ非ラザルノ、怪

說囃^チ說^チ以テ、庶民ヲ迷ハシ、畏クモ吾ガ帝國ノ宗祖タル國
 常立尊ヲ始メ、十柱ノ神ヲ、十把一束ニシテ、私シニ天理王命
 ノ名稱ヲ附シ、非說虛言ヲ以テ、真理ノ正路ヲ踏ミ迷ヒ、邪法
 妄教ノ横道ニ入リ、剩サヘ皇典神事ヲ紊亂スルモノナルヲ
 以テ、本訴ニ及ビタル次第ナレバ、被告天理教會ハ、妄言ヲ吐
 キ人心ヲ惑亂シ、社會ノ秩序ヲ紊レ、正理公道ヲ害スル、妖教
 ナルニ付、速カニ撲滅シ、全ク我等人類社會ニ、該根據ヲ絶ッ
 ベキ旨、及ヒ天理教ノ教祖、みさ女ガ邪妄ノ囈語ヲ吐キ始メ
 シ、天保九年ヨリ、今日ニ至ルマデ、數十万ノ良民ヲ蠱惑シ、日
 本臣民ノ名譽ヲ傷ケ、社會ニ與ヘタル損害賠償ノ爲メ、亞細
 亞、歐羅巴、亞米利加、亞非利加、澳西太利、等五大洲ノ各首府、都
 會ノ地ニ、被告自カラ派出シ、公衆ニ對シ、被告ガ從來天理教

ナルモノヲ、擴張セシトセシハ、日本臣民ノ本心ヨリ出テ
 ルニアラズ、被告等ガ、一時ノ妄想心ヨリ、誤テ愚民ヲ瞞着セ
 シ不都合ノ段ハ、單ニ被告教導職、及購元等ノ、大罪ニテアリ
 シコトヲ、謝罪演說シ、將來再ヒ、右様ナル妖教ノ、發生セザル
 様フ、誓ヒヲナスベシ、若シ被告ニ於テ、之レヲ爲サザルトキ
 ハ、原告ハ、本案ノ顛末ヲ、著作シテ、世ニ公ニスベキ様フ、判決
 アリタリト云ヒ、甲號諸証、及ヒ証人ノ陳述ヲ以テ、立証セリ
 被告天理教會ハ、三條ノ教憲ヲ奉戴シ、明治十一年四月、神道
 管長稻葉教正ヨリ公然認可ヲ得テ、神道直轄天理教會ト、世
 ニ公稱スルモノニシテ、信教自由ノ今日ニ於テ、他ヨリ彼レ
 是レ啖ヲ容ルベキモノニ非ラズ、抑モ此ノ天理教會ハ、大和
 國山邊郡、三島村五番地、中村新治郎方ヲ本部トシ、各府縣ノ

勝地ニ支部ヲ設立シ、教務ヲ取扱ヒ、毎月二十六日ヲ祭日トシ、信者等ハ會堂ヘ參拜シ、例年十月廿六日本部ニ於テ、大祭ヲ執行シ、信者等ニ隨意參拜セシム、而シテ、歳々信徒ノ増加スルヲ、數十万ヲ下ラザルナリ、是レ天理教會、其目的ノ善良ナルト、信教自由ノ御聖旨ニ由ルモノナリ、然ルニ世ノ腐レテ、神主、生マ臭サ坊主、寢ボケ儒者等ガ、我カ天理教會ヲ、罵詈雑言ヲ止マザルモ、是レ則チ已レノ刀ヲ以テ、已レノ首ヲ切ルカ如クナリ、何ントナレハ他ノ神官カ、吾カ教會ヲ罵詈雑言スルモ、稻葉管長ノ許可アルヲ奈何セン、生臭坊主ガ吾天理教會ヲ、防害セントスルモ、信教自由ノ勅令アルヲ奈何セン、寢ボケ儒者ガ吾カ教會ヲ誹謗スルモ、天理ニ適合スル教理ナルガ故ニ、日一日ヨリ隆盛ニ到ルヲ奈何セン、是レニ由テ原告ノ

(六)

請求ニ應スルノ理由ナシト答辨セリ
理由

被告天理教會ハ、三條ノ教憲ヲ基礎トシ、神道管長ノ許可ヲ得テ、信教自由ノ御聖旨ニ依リ、以テ世ニ宣布スルモノナレバ、原告ガ本訴ヲ提起シタルハ、不當ナリトスルモ、原告ガ本訴ノ訴旨トスル所ハ、被告ノ行爲ハ、非說虛言ヲ流布シテ、人心ヲ惑亂シ、正理ヲ誤マリ、衛生倫理ヲ破リ、人智ノ發達ヲ害スルモノナリト云ヘリ、果シテ然ルヤ、否ヤナリ、審案スルニ、被告ノ説明スル所、又証人國學者漢學者佛學者ノ証言、事實參考人、天理教會教導職講元及信者等ノ陳述スル所ト、原告社會公平ノ提起シタル、甲號諸証ニ依リ、原告ノ訴旨明瞭ナリ、然ルニ被告ニ於テハ、三條ノ教憲ヲ

(七)

基礎トシ、神道管長ノ認可ヲ得、信教自由ノ聖旨ヲ奉戴ス
 ルモノナリト云フモ、之レ表面上ノミ、其内部ノ實際ニ至
 リテハ、大ニ反對シ被告ハ三條ノ教憲及日本帝國ノ憲法
 ナ、遵守セザルモノト認定ス
 以上説明シ來リシ如ク、被告ハ原告ノ請求スル通り、妄言
 ナ吐キ、人心ヲ惑亂シ、社會ノ秩序ヲ紊ダシ、正理公道ヲ害
 スルモノニ付、速カニ撲滅スベキ、責アルモノトス
 夫レ然リ而シテ、原告ハ、被告天理教會みき女ガ、妄言ヲ吐
 キ始メシ、天保九年ヨリ、今日ニ至ル迄、數十萬ノ良民ヲ盡
 惑シ、我社會ニ與ヘタル、損害賠償ノ爲メ、五大洲各首府都
 會ノ地ニ、被告自カラ派出シ公衆ニ對シ、謝罪演説ヲ爲シ、
 若シ被告ニ於テ、之ヲ履行セザル時ハ、原告ハ本案訴狀ヨ

リ、判決ニ至ル迄、其顛末ヲ著述シテ、此レヲ世ニ公ニスヘ
 キヲ要求セリ、此点ニ付テ被告ハ、原告ノ申立ノ如キ、罪
 人ニ非ズ、又原告ニ損害ヲ與ヘタルコトナキニ付キ、五大
 洲各首府都會ノ地ニ派出シ、謝罪演説ヲ爲スガ如キ、原告
 ノ請求ニ應ズルノ理由ナシト云フモ、被告ガ妄談邪説ヲ
 以テ、人民ヲ誑惑シ、^{アベシヤ}剩ヘ日本臣民ノ名譽ヲ傷ケ社會ニ損
 害ヲ與ヘタルノ事實ハ、被告自カラ、陳述スル所ニ據ルモ、
 証人國學者、漢學者、佛學者ノ、証言事實參考人ノ、説明ニ依
 ルモ、被告ハ原告ノ請求ニ、應ズルノ義務アルモノトス、是
 レ主文ノ如ク判決スル所以ナリ

眞理裁判長

判事 破邪顯正

判事 宇宙公道
判事 惡魔降伏

原本ニ依リ此正本ヲ作ルモノ也

眞理裁判所

書記 妖 教 鐵 槌

著者曰ク本編ハ未ダ眞理ノ裁判タルノ該當ヲ得スト雖
ドモ冗長ノ恐レアルヲ以テ之レヲ眞理之裁判第壹審ノ
終結トシテ他日天理教會ガ本案ニ服セズ控訴ノ手續ヲ
ナシタルニ模擬シ更ニ進ンデ戰一戰シ風發電撃ノ筆舌
ヲ奮ヒ破妄顯眞ノ正義ヲ論スルイアルベシ

明治二十六年六月十八日印刷
同年同月廿五日出生

定價

金拾六錢

兵庫縣神戸市川崎町百七番地寄留

愛知縣平民

發行兼著作

兼子道仙

兵庫縣神戸市元町一丁目二十三番屋敷

兵庫縣士族

印刷者

辻 岩雄

兵庫縣神戸市川崎町百七番地

發行所

慈無量社

兵庫縣神戸市元町一丁目二十三番地

印刷所

明輝社

注意 同學大改良廣告

同學 每月一回十六日發行 少年前金五拾錢
一冊四十ペー以上 全國無選送料
一月前金四錢五厘 規則書申越次第進呈
以上ノ會員及購讀者募集ノ方及二十圓
以上ノ金所有ノ方又十圓以上一時義捐ノ
諸君ハ本社特別會員トシテ同學無代進呈ス

本誌は本誌の元機を發揚シテ研究し併眞理を琢磨し同
年將來に於テ云爲と見識を定むる本宗の僧侶諸君ハ本宗密
の教理佛敎の眞理を知愛國護法に座有る長くべからざ
らんと欲するもの又愛國護法に座有る長くべからざ
發兌の第卅三誌面に大力的改良の本誌を比しては

倍の光彩を放筆端に龍騰り虎躍の壯觀あり有
志の士早く一本を求めて其言の妄ならざる可

同學社本部
紀州高野山

徳風

第九號 既刊

明治廿六年六月十八日
毎月一回發行

注意

●一冊定價金參圓●全國無選送料
●前金に非れば發送せず●何冊にても割引せず
●爲替先三河國知立局
●見本を照するに御方は往復「はがき」にて申込みあれば直に既刊の
分一冊を無代價にて進呈す

●徳風の説話は道德界の先導者なり
●徳風の法話は生死海の大船筏なり
●徳風の叢談は佛教國の遊戯園なり
●徳風の詞林は塵外寰の君子風なり
●徳風の雜報は東洋人の好伴侶なり

發行所 愛知縣三河國碧海郡知立町稱念寺内 徳風發行所

密嚴教報

毎月二回
十二月廿五日發行

●本紙定價

壹ヶ月……………前金三錢
 半ヶ年……………全六錢
 壹ヶ年……………全三拾六錢
 全七拾貳錢

●廣告料

五號活字貳拾七字詰一行前金五錢

發行所

密嚴教報社

東京小石川大塚坂下町

北陸自由新聞

年中無休刊

一枚

前金壹錢五厘

二拾五枚

前金貳拾五錢

七拾五枚

前金七拾錢

百五拾枚

前金壹圓貳拾錢

郵税

(日日送り)一枚ニ付五厘宛

石川縣金澤市南町四拾番地

發行所

北陸自由新聞社

◎佛教文學書發行主意◎

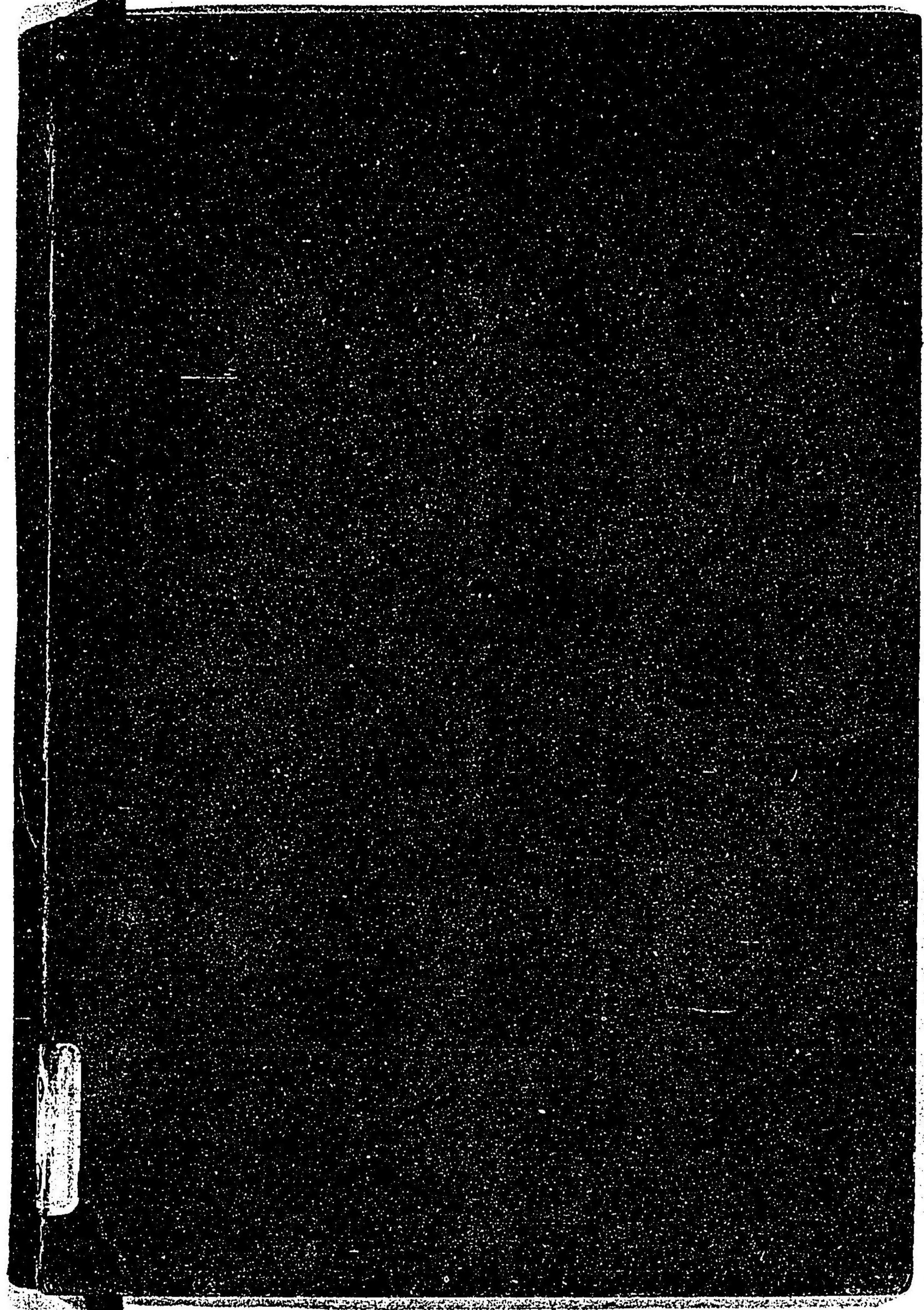
世間の富豪家は財産の保護を佛教に頼み。政事家は政界の閑熱を禪門に避く。況や學者の宇宙真理の淵源を佛教に歸し。亦國粹論者は忠孝大義の振興を佛教に任すの今日に於て佛教文學書なる者なくんばあるべからず故に本院は各宗高僧の講義及び古徳の法語等を集輯して毎月一回佛教文學書なる者を發行すの割●爲替振込は三田郵便局宛

◎佛教文學書第一輯 發行す本輯には故原垣山老法師が帝國大學の教授たりし頃帝國大學に於て講演せられたる所の般若心經の筆記を全載す抑年の説法を演釋せば五千餘卷の經文となるも之を歸納せば心經の一卷となる是れ實に心經の樞要の佛典として宇宙真理の淵源なり故に天下の人士は此の稀世の珍書を必讀すべし

東京芝區伊皿子町國母社内

申込所

佛學院事務所



014296-000-4

特29-179

真理之裁判（妖教撲滅）

兼子 道仙／著

M26

ABB-0638



特
1